実施日程	実施校名	地元主催者
2023年9月25日(月)	玉野市立玉原小学校	岡山県教育委員会
2023年9月26日(火)		
2023年9月28日(木)	新見市立本郷小学校	岡山県教育委員会
2023年9月29日(金)		
2023年11月14日(火)	今治市立宮窪小学校	愛媛県教育委員会
2023年11月15日(水)		
2023年11月16日(木)	福山市立竹尋小学校	広島県教育委員会
2023年11月17日(金)		
2023年12月5日(火)	潮来市立牛堀中学校	茨城県教育委員会
2023年12月6日(水)		

知ってますか?～10月1日は「国際音楽の日」です～

1977年にユネスコの要請で設立された国際音楽評議会という会議で、翌年の1978年から毎年10月1日を、世界の人々が音楽を通じてお互いに仲良くなり交流を深めていくために「国際音楽の日」とすることにしました。
日本では、1994年から毎年10月1日を「国際音楽の日」と定めています。

一般社団法人こども映画教室®とは…

2004年に始まった「こども映画教室®」のミッションは「こどもと映画のアカルイミライ」。
多様な活動を通して、映画という自由で身近な芸術をより多くのこどもに届けます。
こども映画教室のポリシーは2つ。

1. 大人は手出し口出ししないこと。
2. 一流の映画人と出会うこと。

大人がこどもを信じ自主性を尊重することでこどもには自尊感情が生まれ、真剣な大人との出会いはこどもを勇気づけ自己肯定感をもたらします。
「映画教育は人間教育」という言葉を胸に、生きづらさを抱えた子や、居場所をもちにくい子にも映画を届けたいと活動しています。
これまでに、是枝裕和、諏訪敦彦といった一流の映画監督たちがこの活動に共感し特別講師を引き受けています。









一般社団法人こども映画教室

〒150-0036 東京都渋谷区南平台町4-13 南平台ハイツ2F
phone & fax : 050-3188-1549
info.kodomoeiga@gmail.com
http://www.kodomoeiga.com
https://www.facebook.com/kodomoeiga/

令和5年度
学校巡回公演事業

一般社団法人

こども映画教室

映画鑑賞＋ワークショップ

「生きてないものが動く!」

みんなで赤いボールを主人公にした映画を撮ろう!

「学校巡回公演事業とは」

小学校・中学校等において文化芸術団体による実演芸術の巡回公演を行い、子供たちが質の高い文化芸術を鑑賞・体験する機会を確保するとともに、子供たちの豊かな創造力・想像力や、思考力、コミュニケーション能力などを養い、将来の芸術家や観客層を育成し、優れた文化芸術の創造に資することを目的としています。

ワークショップでは、子供たちに実演指導又は鑑賞指導を行います。また、実演においては、子供たちが参加できる工夫を行います。

文化庁
舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)独立行政法人日本芸術文化振興会



映画鑑賞＋ワークショップ

「生きてないものが動く！」

みんなで赤いボールを主人公にした映画を撮ろう！

プログラム紹介

※プログラムは施設ごとの状況により変更となる場合がございます。

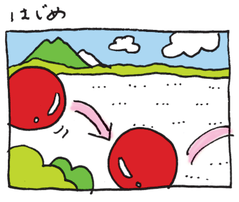


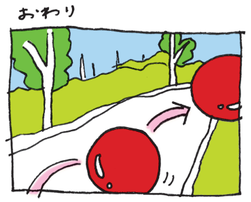


①映画を自分たちで“撮る”

少人数のチームに分かれ、赤いボールを主人公にした短い映画「赤いボールの冒険」をiPadで撮影します。まずは赤いボールの“感情”を決めて、どうしたら、生きていないはずのボールが喜んだり悲しんだり、“感情”があるように見えるか工夫して撮影します。

ボールはかならずフレームの外から入ってきて、最後はフレームから出ていきます。おもしろそうな場所を見つけて撮ってみましょう。







②自分たちの映画を“観る”

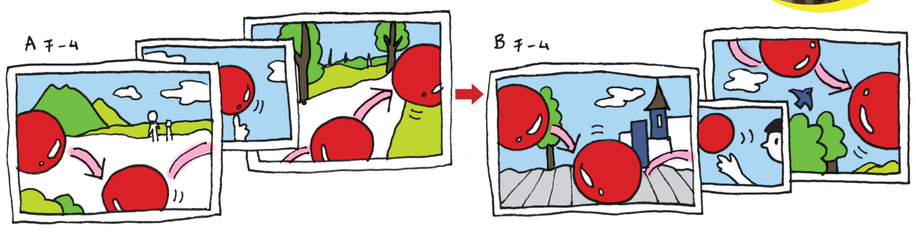




それぞれのチームが撮った映画を1本につなげてみると?!

なんとAチームの映画のおわりにフレームの外に飛びだしたボールがBチームの映画の中にポンとはいってきて、次にはCチームの映画の中に!!

まるで赤いボールがみんなの知っている場所を冒険していくように見えます！



③映画を“観る”

映画『ローラーとバイオリン』をみんなで鑑賞します。この作品はアンドレイ・タルコフスキー監督が映画大学監督科の卒業制作として演出した事実上の処女作。ニューヨーク国際学生映画コンクール第一位。バイオリン教室に通う少年とロードローラーで整地作業をしている青年労働者との友情を描いたこの映画は、その後のタルコフスキー作品に顕著な、人生や芸術、友情や愛についての深い思索と繊細な感性をうかがわせるとともに、日常の情景を主題にしたこの短篇の中に数々見出される瑞々しい映像感覚は、新しい映像作家の誕生を予感させるものがあります。

『ローラーとバイオリン』(1960年/ソ連映画/46分)配給：パンドラ
監督：アンドレイ・タルコフスキー
脚本：A・ミハルコフ=コンチャロフスキー/アンドレイ・タルコフスキー

おはなし

内気な少年サーシャはバイオリンを弾くのが得意でした。ある日、バイオリンを抱えていると、他の少年たちに取り巻かれて脅されてしまいます。そこを赤いロードローラーの運転手セルゲイが助けてくれました。セルゲイはサーシャをロードローラーに乗せてやり、サーシャはセルゲイにバイオリンを聞かせ、二人は心を通わせていきます。一緒に映画を観ようと約束した二人でしたが…。





④映画について“おしゃべりする”

すでに映画「赤いボールの冒険」を撮影したみなさんは、映画の観方が少し違ってきているかもしれません。鑑賞した『ローラーとバイオリン』について、ストーリーだけでなく、映像に着目して、感じたことや考えたことをおしゃべりしながらワークシートを完成させます。こうして、さまざまな映画の観方を体験します。



特別講師プロフィール

諏訪 敦彦（映画監督）

映画監督、大学教授（東京藝術大学）。1997年に公開された『2/デュオ』で長編映画監督デビューの後、1999年公開の監督作品『M/OTHER』で、第52回カンヌ国際映画祭の国際批評家連盟賞を審査員全員一致で受賞。2005年には、全てフランス人キャスト・スタッフによる『不完全なふたり』（日仏合作）がロカルノ国際映画祭において審査員特別賞と国際芸術映画評論連盟賞を受賞。その後もフランスを活動拠点とし、オムニバス映画『パリ・ジュテーム』（2006年）への監督参加、フランス人俳優との共同監督による『ユキとニナ』（2009年）がカンヌ国際映画祭において高い評価を受ける。2018年，8年ぶりの監督作品『ライオンは今夜死ぬ』（2017年）をフランスで撮影。久しぶりに日本で撮影された『風の電話』（2020年）が第70回ベルリン国際映画祭国際審査員特別賞を受賞。一般社団法人こども映画教室の専務理事を務める。

● ワークショップスタッフ

【映画監督（特別講師）】※1巡回スケジュールにより1名を派遣
諏訪 敦彦、萩生田 宏治、五十嵐 耕平、
深田 隆之、瀬由 なつき、早川 千絵、山本 英

【エグゼクティブプロデューサー】
土肥 悦子

【映像制作チームリーダー（ファシリテーター）】
奥定 正掌、大川 景子、飯岡 幸子、西原 孝至、
太田 達成、藤田 開、関 瑠惟、山本 大輔、西後 知春

【メイキング動画撮影監督】
小林 和貴

【メイキングスチール撮影監督】
中村 隆一

【チーフテクニカルマネージャー】
酒井 貴史

【テクニカルマネージャー】
御子柴 和郎、相馬 航佑

【プロデューサー】
浅見 孟